



自衛隊栃木地方協力本部

芳賀町民祭で広報展！



組みひも体験の様子



制服試着をして車両展示を楽しむ来訪者

自衛隊栃木地方協力本部真岡募集案内所（所長 浦井 准陸尉）は、11月9日（日）、栃木県芳賀郡芳賀町において開催された『第44回芳賀町民祭』Hondaのモビリティを体感せよ』において自衛隊広報ブースを出展した。

町民祭は公道で初となるホンダF1カー走行を始め、最先端技術体験から地元グルメ、伝統芸能大会など幅広い年代が楽しめる行事となった。自衛隊ブースでは1/2トトラックの車両展示を行ったほか、制服試着体験、階級章展示、組みひも体験、進路相談コーナー及び家族会による自衛隊グッズ販売等が行われた。

当日はあいにくの雨模様となったが、多くの来場者でにぎわった。自衛隊ブースでは、どの制服を着るか迷いながら、笑顔で記念撮影をする親子や自衛隊で使用されるロープワークの例を聞きながら熱心に組紐体験を行う来訪者が多く見られた。特に組みひも体験では、真剣な表情で集中し取り組んでいたのが印象的であった。ブース来訪者からは、「自衛隊の訓練はきつくないですか？」「女性も働いているのですね、どんな仕事をしているのですか？」と様々な質問が飛び交い、自衛隊への関心の高さを感じることができた。

真岡募集案内所は「今後も、地域のイベント等を通じ自衛隊への信頼関係を深めるとともに、地域との協力を体制を充実させていく」としている。

「防衛講話」白鷗大学で開催

～ニュースから読み解く近時の安全保障問題～



防衛講話の様子



白鷗大学教授、法務官、栃木地方協力本部長等との記念撮影

自衛隊栃木地方協力本部小山地域事務所（所長 小林1空尉）は、11月12日（水）、白鷗大学法政策研究所講演の依頼を受け防衛講話を行った。

防衛講話は航空自衛隊入間基地の法務官2名の支援を受けて実施され、白鷗大学生98名に対し行われた。防衛講話で引用したニュースの内容は、あくまで各報道機関の見解であり、政府の見解とは異なる場合もあるものの、我が国を取り巻く安全保障環境及び防衛政策や各種取組等をニュースから読み解き我が国の法制と併せ解説した。また、令和6年元旦に発生した能登半島地震における災害派遣についても講話を行った。

今回の講話は、大学生に近い年齢の若手幹部が参加しており、学生の前で講話することで、自衛隊を身近に感じてもらえたと感じたことのほか、講話終了後は個別に説明を聞きたいと申し出る大学生もあり、自衛隊法務の業務の理解も得られたと感じた。

小山地域事務所は「今回の防衛講話は2回目の開催であり、学生への講話を通して防衛に興味をもってもらえたとと思う。今後も継続し防衛講話を実施し、自衛隊への興味や理解促進を進めていきたい」としている。